

## 2015年度（平成27年度）事業計画（抜粋）

### 1. 基本方針

女性のための質の高い教育機関たれという津田梅子の建学の精神は、本学の教育理念として、今日に至るまで連綿と受け継がれている。建学以来の伝統である高度な英語教育、少人数制セミナーを通したきめ細かい指導や、能力別クラスの導入、学科横断コースの設置など、時代の要求に応えるための工夫をさまざまに重ねてきた。しかし、急速なグローバル化、少子化が進み、大学間競争が激化しつつある現在、かつてなかった規模で迅速に教育改革を押し進め、他大学にはない個性を打ち出すことが求められている。そのためにも学部については2017年度までに、大学院については2021年度を目処に全面的な改革を行う。2015年度においては、千駄ヶ谷キャンパスに設置する新教学組織の準備と同時に、小平キャンパス改革の具体化を進める。

施設整備については、2015年度に千駄ヶ谷校舎の建設に着手する。小平キャンパスでは、2020年を目処に、図書館、新館（大教室、研究室、会議室、事務局）、南校舎（コンピューター教室、中規模教室）などの建て替えを計画通り進めてゆけるよう、計画の具体化に着手する。図書館建て替えについては、図書館計画委員会において社会やメディアの変化に対応した機能・役割について2015年度末までに整理を行う。2018年度建て替え予定の南校舎や2020年度建て替え予定の新館についても時代に適応した建物とするため、施設管理部門において、機能分析を行う。

### 2. 2015年度の主な事業計画

#### (1) 千駄ヶ谷キャンパス新教学組織

千駄ヶ谷キャンパス新教学組織設置に向けての準備のうち、2015年度は、教育学面の詳細を確定させ、2015年度末に認可申請を行う。また、キャンパス整備第1期工事に着手する。

#### (2) 教育事業

学生の個性を尊重する少人数教育を実践し、リベラル・アーツと外国語（英語）に重点をおいた教養教育を行うという基本的姿勢は維持しつつ、時代の変化に対応した施策を講じてゆく必要がある。以下は2015年度に取り組む主な教育事業である。なお、新たに始まるものについては★印を付す。

- ① Tsuda English Coordination Center（TECC）の活動の一環として、全学の1、2年生の英語教育における習熟度別カリキュラム（PACE）を継続して実施する。
- ② 入学時にクラス分けテスト（文系 TOEFL-ITP、理系 TOEIC-IP）を実施し、そのスコアによりレベルに応じたクラスに分ける。さらに1学年の終わりに

2年次のクラスを決めるための同様のテストを実施する。

- ③ ★英語の基礎力増強と授業外学習時間の有効活用のための e-learning 教材を更新し、更なる活用の工夫と効果測定を行う。
- ④ 学生の個性に応じたきめ細かい教育の一環として、ティーチング・アシスタント（TA）活用による学習相談・履修指導を継続する。さらに履修者201人以上の授業科目にクラス・アシスタント（CA）を配置する措置を継続して実施し、効率的な授業体制を整える。
- ⑤ 2012年度に採択された関西大学との「大学間連携共同教育推進事業〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」を推進する。
- ⑥ 大学院生の研究活動支援のための大学院生研究活動支援費の支給を継続する。
- ⑦ ★FD委員会を設置し、教員の教える技術の更なる上達を計る。個教員だけではなく、学内の部署、学科等がFD支援費に応募できるようにした。
- ⑧ ★電子黒板の整備 教職課程の教科教育法の充実を図るとともに教育実習の現場に備える。

### (3) 研究支援

学務担当学長補佐、研究支援室を中心に下記の研究支援を行う。

- ① 教育研究支援体制の充実と外部資金獲得を図り、新規事業への申請および採択に向けて取り組む。
- ② 「『協働』によるメディア教育の展開」（ソーシャル・メディア・センター）は外部資金による取組期間が終了したが、2015年度も自己資金を投入し、必要な活動を継続する。
- ③ 2014年度に策定したガイドラインに則り、明確化したプロセスの下、外部資金の管理運営を行う。
- ④ 私立大学等改革総合支援事業等の採択を目指す。

### (4) 学生支援

- ① Web を活用した学生データの管理、証明書自動発行機の活用など、IT を利用した学生サービスの充実を図る。
- ② 経済状況を踏まえ、修学支援特別給付金制度（総額600万円）を継続し、新入生を支援する。
- ③ 東日本大震災被災学生の支援として、東日本大震災の災害救助法適用地域に家計支持者が居住する新入生が学業を継続できるよう、修学支援奨学金の給付を行う。
- ④ インクルーシブ教育支援室を設置し、障害学生支援体制の更なる強化を図る。
- ⑤ 入学式当日に新入生保護者のためのガイダンスを、11月には在学学生保護者のためのガイダンス（学生生活支援）を実施する。

- ⑥ 海外活動奨励金や課外活動奨励金などの奨学金支給を継続する。
- ⑦ 大学院生への給付奨学金により、優秀な入学志願者を増やし、学業が優秀で経済的困難を抱える院生の修学支援を継続する。
- ⑧ 就職対策講座、とりわけ★教員採用試験および公務員採用試験のためのプログラムを拡充する。
- ⑨ 就職活動時期の日程変更に伴って活発化したインターンシップに対する学生支援を強化する。
- ⑩ 大学生精神医学的チェックリスト（UPI）を用いて新入生の心身の健康状態を把握する。全学生にカウンセリングのサービスを提供している。
- ⑪ フィールドワークや語学研修における学生の安全な活動を支えるために安否確認システムの利用等の危機管理体制を強化する。
- ⑫ ★フィールドワークに関わる（事前・事後を含む）書類作成から管理、さらに各地の危機管理情報も含めた把握・指導を行う補助的な指導要員を配置する。
- ⑬ 寮生のために生活安全対策支援を実施する。
- ⑭ 派遣留学生危機管理サービスを導入し、派遣留学生をはじめとする海外で活動する学生に対し、日常の相談や緊急時の対応サポート面を強化する。

#### (5) 国際交流、大学間ネットワークによる交流

##### ① グローバル化推進支援

2014年度に津田梅子生誕150周年を期に開始した国際交流強化計画に基づき、海外で学び、活動する学生を支援する海外奨学金制度を2015年度以降も継続・推進する。

##### ② 国際交流

- ・ 国際交流の強化計画に基づき、ヨーロッパ、ロシア、カナダの新規協定校との交渉を進め、2015年度は協定校を3校増やし、27校とすることを目指す。
- ・ 国際交流の強化のために、学生交流に加え、教員の研究交流も含めた新たな協定の枠組みを検討する。
- ・ ★国連難民高等弁務官事務所 UNHCR から難民学生を受け入れ、そのための修学支援奨学金を設置する。
- ・ 2013年度11月に参加した国連アカデミック・インパクト(UN Academic Impact)を活用して、地球的規模の課題解決へ貢献する取り組みを実施する。
- ・ 国際交流強化計画に基づく、High Level 協定校への留学促進のための英語強化プログラムを実施する。

##### ③ 大学間ネットワーク

- ・ 「多摩アカデミックコンソーシアム（TAC）」の活動を推進する。

- ・ EU Institute in Japan (E U I J)、EU Studies Institute in Tokyo (E U S I) の活動を継続する。
- ・ 日加戦略的留学生交流促進プログラム日本コンソーシアム (JACAC) の活動を推進する。
- ・ 東京外国語大学との学術教育交流協定により学部・大学院の単位互換制度を推進するとともに、他大学との単位互換制度を拡充する。
- ・ 一橋、大学院単位互換制度 (数連協、英専協、enPit)、沖縄大学との学生交換

④ 高大連携

連携高校における大学ガイダンス等の活動の活性化を図り、本学授業の履修を促す。

⑤ 語学研修

夏期語学研修として (英国) ヨークプログラム 30 名、(カナダ) マギルプログラム 30 名、(アメリカ) インディアナプログラム 30 名を実施する。

(6) 学生募集

- ① 直接受験生と会う機会を増やすため、学外進学相談会への参加回数を増加する。
- ② 2017 年度の新教学組織設置および 2020 年度に予定されている新テストに対応するため、全学統一試験実施等従来の選抜試験方式について検討を行う。

(7) 広報活動について

- ① 2014 年度に開始した学生・教員・職員の編集によるオフィシャルウェブマガジン “plum garden” の内容を更に充実させ、受験生を含め広く学外に大学の魅力を伝える。
- ② 2017 年度開設予定の新教学組織についての広報の準備作業を進める。

(8) ★数学科・情報科学科設置 10 周年記念事業

2015 年は情報数理科学科を数学科と情報科学科に分割して 10 周年にあたる。この機会に両学科の存在を広報し、志願者増と卒業生のネットワーク形成を図る。

(9) 2015 年度施設整備計画

2015 年度については以下のような施設整備事業を予定している。千駄ヶ谷新教学組織の整備事業は、まだ設計段階であるので、以下は、すべて小平キャンパスにおける整備事業である。

★5302CALL 教室新規システム更新事業

5201,5202,5205CALL 教室の CALL システム借入費用

- ★5号館3階教室(5301,5307,5308,5310)机、椅子の更新
- ★記念館食堂厨房改修工事
- ★学生用ロッカー更新
- ★府中街道沿いフェンス改修工事第1期南側改修
- 府中街道沿い樹木枝下ろし第2期
- 構内外灯設備改修2期工事
- ★新学科対応新教務システム導入調査

以上が現時点での事業計画であるが、これらは学内外の状況に対応して、計画内容を変更または中止する可能性がある。計画の変更中止が、以下に述べる予算に対しても大きく影響をおよぼした場合(大科目で5千万円以上)、補正予算を組むことになる。

応えているかをチェックし、適正な学校法人運営を行ってゆく。

### 3. 予算の概要

国内の経済状況は、緩やかな回復傾向が持続しているという見方もあるが、企業の景況感や消費者マインドが好転したとは言いがたい状況にある。大学にとっての環境も、2018年以降に18歳人口が大きく減少することと、国庫補助金も競争的資金へのシフトにより経常費補助金の減少傾向は続いていくといった状況にあり、一層、厳しさが増すことは明らかである。

本学においては、千駄ヶ谷新教学組織のキャンパス整備ならびに小平キャンパスの施設整備という大規模な資金を要する計画が目前に迫っており、投資局面に入る。したがって、千駄ヶ谷新教学組織と小平キャンパス施設整備が完了するまで事業活動の収支は支出超過が見込まれる。

【事業活動収支予算書について】

		(単位 円)			
	科目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,849,579,000	2,798,492,000	51,087,000
		手数料	115,505,000	124,734,000	-9,229,000
		寄付金	6,500,000	10,630,000	-4,130,000
		経常費等補助金	327,710,000	385,000,000	-57,290,000
		付随事業収入	126,270,000	144,552,000	-18,282,000
		雑収入	229,355,000	303,649,000	-74,294,000
		教育活動収入計	3,654,919,000	3,767,057,000	-112,138,000
	事業活動支出の部	人件費	2,183,828,000	2,112,705,000	71,123,000
		教育研究経費	1,037,597,000	988,252,000	49,345,000
		管理経費	346,767,000	443,032,000	-96,265,000
		教育活動支出計	3,568,192,000	3,543,989,000	24,203,000
		教育活動収支差額	86,727,000	223,068,000	-136,341,000
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	43,027,000	48,042,000	-5,015,000
		教育活動外収入計	43,027,000	48,042,000	-5,015,000
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0
		教育活動支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	43,027,000	48,042,000	-5,015,000
		経常収支差額	129,754,000	271,110,000	-141,356,000
	特別収支	事業活動収入の部	その他の特別収入	5,500,000	0
特別収入計			5,500,000	0	5,500,000
事業活動支出の部		資産処分差額	5,409,000	1,034,000	4,375,000
		その他の特別支出	77,608,000	77,608,000	0
		特別支出計	83,017,000	78,642,000	4,375,000
		特別収支差額	-77,517,000	-78,642,000	1,125,000
		[予備費]	33,000,000	33,000,000	0
		基本金繰入前当年度収支差額	19,237,000	159,468,000	-140,231,000
		基本金組入額合計	-1,523,736,000	-538,635,000	-985,101,000
		当年度収支差額	-1,504,499,000	-379,167,000	
		前年度繰越収支差額	-535,736,000	-156,569,000	
	翌年度繰越収支差額	-2,040,235,000	-535,736,000		
	(参考)				
	事業活動収入計	3,703,446,000	3,815,099,000	-111,653,000	
	事業活動支出計	3,684,209,000	3,655,631,000	28,578,000	

(1) 教育活動収支「事業活動収入の部」

① 学生生徒等納付金

前年度入学者より学費改定を行ったため、授業料、施設設備資金が増加し、入学金は減少する見込みでトータル5千百万円程度の増加となる見込みである。

② 経常費等補助金

「私立大学等改革総合支援事業」が採択されるよう努力しているが、国庫補助金の対前年度予算比としては5千7百万円程度の減少を見込んだ。

③ 付随事業収入

千駄ヶ谷新教学組織のための建築準備のため千駄ヶ谷キャンパスにおけるオ

オープンスクール事業を縮小するため「公開講座収入」が1千9百万円程度の減少が見込まれる。

④ 雑収入

千駄ヶ谷新教学組織のための建築準備のため千駄ヶ谷キャンパスにおけるホール事業を行わないため「施設設備利用料」が1億5千2百万円程度減少する見込みである。

(2) 教育活動収支「事業活動支出の部」

① 人件費

教員人件費は欠員補充があり、1千5百万円程度増加の見込みである。

職員人件費は2014年度末に退職者が3名あるなどの要因で、1千9百万円程度減少の見込みである。

退職給与引当金繰入額は7千5百万円増加の見込みである。

② 教育研究経費

光熱水費は電気料金の値上げが続き、1千6百万円程度の増加が見込まれる。修繕費は2014年度にCALL教室の改修工事があったため、対前年度予算比では2千3百万円程度減少の見込みである。

衛生清掃費は小平キャンパスの府中街道沿い枝下ろしおよび千駄ヶ谷の本館と別館の什器等の撤去作業等を予定していることと2014年度まで管理経費だった津田ホールの費用が2015年度から教育研究費に仕訳されるため、3千5百万円程度増加する見込みである。

賃借料は情報基盤機器を2015年度の終わりまで再リースを行うため、3千5百万円程度増加する見込みである

手数料・報酬は5号館5302CALL教室のシステム更新および入試システムのカスタマイズ等があるため3千2百万円増加する見込みである。減価償却費は情報教育基盤整備および5302CALL教室のリース（4年）が終了するので償却完了となり、6千百万円減少する。

③ 管理経費

修繕費は2014年度に東西寮廊下階段照明設備改修工事があったことと、2015年度より津田ホールの費用は基本的に教育研究費に仕訳されるため、対前年度予算比では1千2百万円減少する見込みである。

光熱水費および保守費、委託費、衛生清掃費等の減少はホール事業を終了することによるものである。

④ 教育活動収支差額

教育活動収支差額は8千7百万円となり、前年度比で1億3千6百万円の減少である。これはホール事業の終了およびオープンスクールの事業規模縮小が主な要因である。

(3) 教育活動外収支「事業活動収入の部」

① 受取利息・配当金

市場金利の低下が続いており、5百万程度の減少が見込まれる。

(4) 経常収支差額

教育活動収支と教育活動外収支の集計であり、2015年度は1億3千万円の収入超過の見込みである。

(5) 特別収支

「事業活動収入の部」は現物寄付と施設整備補助金で、「事業活動支出の部」は図書資産処分差額と退職給与引当金特別繰入額である。退職給与引当金は、2010年度末まで期末要支給額の50%を計上してきたが、2020年度期末までに100%を引き当てられるように2011年度より10年間、退職給与引当金特別繰入額として積み増しを行っている。当年度も前年度と同額の7千8百万円を計上する。

(6) 基本金組入額

基本金には、土地及び建物附属設備等の取得金額である第1号基本金、将来の建物等取得のための積立を行う第2号基本金と奨学基金の積立を行う第3号基本金、支払資金として確保しておくべき第4号基本金がある。

基本金組入額15億2千4百万円のうち、第1号基本金は、建物が8千9百万円、構築物が2千4百万円、図書が7千4百万円、建設仮勘定が10億6千8百万円である。建設仮勘定の内訳は10億が千駄ヶ谷の第1期建設および取り壊し工事の第1回目支払い分で、6千8百万円が設計委託およびCM契約の2015年度支払い分である。

第2号基本金への組み入れは2億6千5百万円で、その内訳は新館建替資金の1億円、南校舎建替資金の5千万円、図書館建替資金の1億1千5百万円である。

2015年度の基本金組入前当年度収支差額は1千9万円収入超過の予算であり、15億円を超える基本金組入額は、ほぼ全額当年度収支差額のマイナス額として表れる。これに前年度繰越収支差額の5億3千6百万円と合わせたマイナス20億4千万円が翌年度繰越収支差額となる。前述のとおり、本学は投資局面にあり、それが終了するまではこの状況が続くことになる。

【資金収支予算書について】



収入の部			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
4100 学生生徒等納付金収入	2,849,579,000	2,798,492,000	51,087,000
4200 手数料収入	115,505,000	124,734,000	9,229,000
4300 寄付金収入	6,500,000	6,500,000	0
4400 補助金収入	329,210,000	385,000,000	55,790,000
4600 資産売却収入	300,000,000	300,000,000	0
4700 付随事業・収益事業収入	126,270,000	144,552,000	18,282,000
4500 受取利息・配当金収入	43,027,000	48,042,000	5,015,000
4800 雑収入	229,355,000	303,649,000	74,294,000
5200 前受金収入	538,725,000	565,231,000	26,506,000
5300 その他の収入	1,802,644,000	766,196,000	1,036,448,000
5400 資金収入調整勘定	699,939,000	685,618,000	14,321,000
5501 前年度繰越支払資金	600,325,000	440,392,000	159,933,000
5510 収入の部合計	6,241,201,000	5,197,170,000	1,044,031,000
支出の部			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
6100 人件費支出	2,240,010,000	2,135,206,000	104,804,000
6200 教育研究経費支出	788,180,000	677,813,000	110,367,000
6300 管理経費支出	257,491,000	355,413,000	97,922,000
6600 施設関係支出	1,193,432,000	212,456,000	980,976,000
6700 設備関係支出	149,945,000	98,704,000	51,241,000
6800 資産運用支出	1,193,695,000	957,057,000	236,638,000
6900 その他の支出	535,474,000	502,478,000	32,996,000
6959 [予備費]	33,000,000	33,000,000	0
6960 資金支出調整勘定	716,157,000	375,282,000	340,875,000
6991 翌年度繰越支払資金	566,131,000	600,325,000	34,194,000
6999 支出の部合計	6,241,201,000	5,197,170,000	1,044,031,000

## (1) 収入の部

「学生生徒等納付金収入」から「雑収入」までは、事業活動収支予算書で記述しているため、それ以外の収入について記述する。

### ① 前受金収入

ホール事業に関する前受金がなくなるため、減少する見込みである。

### ② その他の収入

退職給与引当特定資産からの繰入収入は、2016年3月退職予定で計上している。減価償却引当特定資産からの繰入収入は、10億が千駄ヶ谷の第1期建設および取り壊しの第1回目支払い分であり、残り2億5千7百万円が小平キャンパスにおける施設整備計画の資産取得額である。

## (2) 支出の部

人件費支出から管理経費支出までは、事業活動収支予算書に記載しているものと基本的には同額（退職金支出および減価償却費を除く）であるため、それ以外の支出について記述する。

### ① 施設関係支出

建物支出および構築物支出は、記念館厨房改修工事および府中街道沿いフェ

ンス改修工事等である。

② 設備関係支出

教育研究用機器備品支出は 5302CALL 教室新規システム更新および5号館3階教室(5301,5307,5308,5310)机、椅子の更新、学生用ロッカー更新等である。

ソフトウェアは 5302CALL 教室新規システム関連のものである。

③ 資産運用支出

施設整備資金引当特定預金繰入は、2015年度は行わない。

以上により、翌年度繰越支払資金は5億6千6百万円となり、前受金収入相当額を確保した。

以上